群馬の畜産
みんなの情報室
第 307 号
発行日 平成22年11月

（社）群馬県畜産協会　前橋市亀里町1310／電話027（220）2371／FAX027（220）2372／発行人　奥 木 功 男
群馬県畜産協会ホームページ　http://www.chikusankyokai.or.jp/

有限会社三喜鶏園が優秀賞受賞!!

１１月８日、東京都港区の機械振興会館で平成２２年度全国優良畜産経営管理技術発表会が（社）中央畜産会および（社）全国肉用牛振興基金協会主催のもと開催され、群馬県地方審査委員会より推薦された高崎市下里見町の採卵鶏経営「有限会社三喜鶏園」が、優秀な経営実績を収めている事例として優秀賞を受賞しました。

本催しは、全国より推薦された優秀な畜産経営等について表彰し、経営の特徴・成果について広く紹介する目的で開催されています。今年は、全国の地方審査委員会より１８事例が推薦され、そのうちの１２事例が受賞しました。発表会では、受賞事例１２事例による業績発表のあと、中央審査委員会による最終審査が行われ、最優秀賞４事例、優秀賞８事例が決定されました。

有限会社三喜鶏園は「卵価に左右されない安定経営」を目指し、平成１５年にオープンした直販店「たまご市場卵太郎」で高付加価値化を図ったブランド卵や自家鶏卵を用いたシュークリーム、プリンなどの加工品の製造・販売に取り組んでいる経営体です。発表会では「こだわりたまごで挑んだ６次産業化～卵価に左右されない安定経営を目指して～」という表題で業績発表を行いました。三喜鶏園が審査委員会より評価された点は、①生産・販売部門での省力化への取り組み、②山間地の気候を活かした飼養管理、③直販店での鶏卵及び鶏卵加工品の販売、④小中学生の校外学習の受け入れ等の地域交流など、経営の安定化に向けて農場と店舗が一体となって取り組んできたことが評価され受賞となりました。

当協会では、これからも多くの事例を推薦していきますので、優良事例の情報をお待ちしております。

中央畜産会長賞授与の様子（右：富澤社長、左：相模農場長）

目　次

●有限会社三喜鶏園が優秀賞を受賞・・・・・・・・・・・・・ 1
●今後さらに増す県内防疫体制強化の必要性・・・・・・ 2
●畜産ふれあい体験事業を実施しました　・・・・・・・・・ 3
●第14回はちみつ品質向上共励会　・・・・・・・・・・・ 5
●第34回群馬県バローショー開催　・・・・・・・・・・・・・ 6
●平成22年度群馬県種山羊共励会開催　・・・・・・・・・・ 6
●和牛削蹄技術講習会を開催しました　・・・・・・・・・・ 7
●各種畜産物価格差補てん事業について・・・・・・・・・・ 8
●畜産試験場が紹介する新技術について・・・・・・・・・・ 10
●第21回群馬県酪農畜産フェスティバルを実施　・・・・ 12

“今後さらに増す県内防疫体制強化の必要性”

宮崎県内では４月２０日の発生確認から４ヶ月余りの長い苦闘を経て、漸く８月２７日に東国原知事の終息宣言が出され、関係者は一様にほっとしたところです。この間大切な家畜を犠牲にし、日夜、消毒作業に追われた畜産農家や関係者の皆様は、物心両面に大きな被害を被り、大変辛い思いをされております。心からのお見舞いと早い復興をお祈りします。インターネット上では２ちゃんねるの書き込みや、様々な問題の指摘、対応のまずさを指摘するものも多く、特に殺処分に特例を認めたことへの批判は大きかったと思います。現代社会の人や物の流れから、日本国中どこから次に発生しても不思議ではない状況であるため、畜産農家や関係者は常に不安を持っていました。しかし、宮崎県内の発生で収めていただいたので、結果として要らぬ心配となりました。このことは宮崎県内だけでなく、全都道府県の努力の賜物と確信しております。

群馬県では初動対応を始め、県や関係機関・団体等で迅速な対応が執られました。司令塔となる県庁内では幹部を集めての緊急会議等を始め、地域では家畜防疫員が中心になって防疫会議の開催、防疫研修会への講師派遣、各種会議等での情報提供・注意喚起などこれまでに268回(10月31日現在)行われています。また、牛、豚、緬山羊を飼養する全農家を対象に1,700を超える農場の清浄性を確認する緊急調査も行われています。その他にも防疫啓発活動や広報活動が農家や市町村、農協に対して随時、繰り返し行っており、これらは情報提供と併せ大事な取り組みだったと思います。また、当協会でも複数出しましたが、県庁職員を始め関係機関から20数名を宮崎県へ派遣し、現地で実体験して来たことは今後の群馬県の家畜防疫に大変心強い思いがしています。更には、宮崎県知事の終息宣言から間もない９月８日には群馬県と県獣医師会共催で口蹄疫防疫研修会が開催され、宮崎の防疫体制の検証について大学教授の話と、「口蹄疫はどうして宮崎県で拡大したか」のパネルディスカッションが、５名の派遣者が参加しておこなわれました。発言によると、現場の指揮系統が混乱して待ち時間が多かった。車両消毒はタイヤのみだった。地元の人が消毒ポイントを通らず迂回していた。ダメと言われる携帯を持ち込んでいた。など現場での混乱状況が聞かれました。また県からは新たに防疫指針を制定して、今後の備えを示されるなど、とても有意義な研修会でした。

また、翌週の９月１３日にはＪＡグループ家畜伝染病防疫対策本部主催の防疫対策会議が開催され、ここでは県内防疫対策と口蹄疫被害からの復興支援対策等について熱心な討議が行われ、県からは防疫指針が示されました。一方、農水省では９月２４日に全都道府県を対象とした、机上演習がおこなわれました。この結果検証で１０月下旬に衛生担当者を集めて検討会を開き、農場位置や飼養頭数把握、消毒ポイントの設置場所選定、殺処分家畜の埋却地確認等が課題とされました。今後は大規模農場での発生や複数農場での発生を市町村に拡げて演習を行うようです。口蹄疫は日本国内にあってはならない伝染病のため、早期に清浄国への復帰が望まれるところです。４月の発生から292農場で211,608頭の家畜が殺処分され、ワクチン接種家畜は77,035頭が殺処分されました。最終処分後３ヶ月間経過で国際獣疫事務局（0IE）に清浄国回復のための申請が行われました。今後専門家や科学委員会における審議を経て来年２月に清浄国に回復認定がされるようです。この原稿を考えているときに今度は高病原性鳥インフルエンザのニュース、北大がおこなう野生カモの糞便から強毒タイプのウイルスが分離されたとの発表。「日本は島国だから安全」の神話はとっくに崩れていて、常に警戒を要する国になっています。県内での防疫体制維持強化は今後ますます大事になると考えます。（苫米地達生）

畜産ふれあい体験事業を実施しました

本会は、消費者の方々に畜産のことをよりよく知っていただくために、毎年、畜産ふれあい体験事業を実施しています。今年度も中央畜産会助成事業である「地域畜産ふれあい体験交流活性化事業」を軸に、本会の自主事業も含めて７回の催しを計画し、すでに６回を実施しましたので、その概要を紹介します。なお、これらについての情報は、本会ホームページに掲載されていますので、そちらもご覧ください。

「牧場体験」

小学生とその保護者を対象に、下仁田町の財団法人神津牧場において、牧場での生活や作業を体験するイベントを下記により開催しました。

県内消費者を対象とした日帰りコースでは、担当者から群馬県の家畜や畜産物の話を聞いた後、生まれたばかりの子牛へのほ乳や刈り取った牧草の子牛への給与、乳搾りやカーフハッチの清掃、畜産物の加工などを楽しく、また興味深く体験しました。また県内外の消費者を対象にした１泊２日コースでは、日帰りコースの内容に加え、牛の放牧の手伝いや関東平野を一望できる展望台へのハイキング、神津牧場天文台の協力による星空観察など、広大な面積を保有している牧場でなければできない、楽しい体験思い出を作ることができました。

「牧場体験・日帰りコース」
第１回：７月３０日(参加者４２人)
沼田市を出発し神津牧場へ
第２回：８月１９日(参加者３９人)
ＪＡビル駐車場より神津牧場へ

「牧場体験・１泊２日コース」
第１回：８月７日～８日(参加者３３人)
第２回：８月２１日～２２日(参加者２５人)

アイスクリーム作り

牧草の給与

カーフハッチの清掃

「親子牧場ふれあい交流会」

小学生とその保護者を対象に、川場村及び片品村の牧場を舞台に、牛乳の生産や牧場の役割について学ぶ、親子牧場ふれあい交流会を１０月２日～３日（１泊２日）を開催しました。

県内消費者等５３人が参加し、大型バス等で午前１０時半にＪＡビルを出発した一行は、まずＪＡ利根沼田川田支所で、担当者から畜産物の生産や消費の状況について話を聞いた後、ＪＡ酪農部より提供されたアイスクリームに舌鼓を打ちました。おいしい昼食をすませた後、道の駅のすぐ近くにある「川田牧場」で、経営者である川田忠さんや奥さんから、牛を飼っている様子や牧場を経営していて大変なことなど、詳しい話を聞きました。また牧場内を案内していただき、さらに搾乳や牛のブラッシングなどの体験をさせていただきました。片品村の花咲温泉近くの民宿で一泊した後、公共牧場として農家の牛を預かって育成・放牧を行っている片品村営武尊牧場に向かいました。リフトに乗ること２０分で放牧場に着きましたが、あいにくこの日の牧場は深い霧。気温も低く、参加者は防寒用に配られた簡易レインコートを着て、担当者から牧場の役割などについて話を聞きました。その後ロッジに移って、牧場を管理している担当者の方から牧場について詳しく説明をしていただきました。そのうちに霧が晴れてすっかり暖かくなり、参加者たちは近くのブナの自然林に入ってネイチャーガイドから森林の役割などについて教えてもらいました。

搾乳施設の見学

搾乳体験

片品村営武尊牧場

ブナの自然林

「調理教室」

去る９月１８日、県内消費者２８人が参加して、県内畜産物を主に使用した調理教室が太田市農村環境改善センターで開催されました。

担当者から、群馬県は畜産県でありながら全国的に見ると畜産物購入量が少ないので、県産畜産物をぜひたくさん買ってもらいたい、と統計をもとに説明を受けた後、ホザナ料理教室の石垣恵美先生が、オリジナルの「夏ばて解消料理レシピ」４品を紹介しました。参加者たちは、先生の指導のもと、楽しくまた真剣に畜産物を利用した料理を学び、できあがった料理はみんなで試食してできばえを確認しました。

今回の調理教室で作成した料理は以下のとおりです。なお、レシピは本会ホームページに掲載してあります。

＜メニュー＞

・ステーキライス(牛肉)
・とんロールの黒酢あんかけ(豚肉)
・鶏肉と根菜の梅酒煮(鶏肉)
・ベークドチーズケーキ(乳製品)

第１４回はちみつ品質向上共励会

１０月２３日、群馬県養蜂協会主催のはちみつ品質向上共励会が群馬県庁県民広場で行われました。最優秀賞(群馬県知事賞)にアカシアの部では多野藤岡支部の岡本幸則さん、百花の部では東毛支部の塙克雄さんが受賞しました。県内の養蜂家９８人からアカシア、トチ、リンゴ、栗など９８点の出品があり、糖度、色沢、風味について４人の審査員が慎重にチェックし，上位については再度の比較検査をおこなって決定されました。優秀賞は下記の方が受賞されました。

優　秀　賞	アカシアの部	支部	百花の部	支部
群馬県畜産協会長賞	樋口知伯	北群馬渋川	岡本幸則	多野藤岡
日本養蜂はちみつ協会長賞	吉田善昭	東毛	小野幸広	利根沼田
群馬県養蜂協会長賞	成田林宣	北群馬渋川	横地宏三	群馬高崎
〃	福島紀男	〃	黒沢和男	甘楽富岡
〃	小川雅巳	東毛	本多利房	利根沼田
	塙　克雄	〃	金井祐司・根岸和明	東毛

県はちみつ部会理事の小林さんは「遅霜と４月の雪の影響で豊作ではなかったが、ミネラルやビタミン類を多く含む**安心・安全な県産はちみつ**を皆さんに食べていただきたい」と語っていました。

第34回群馬県バローショー開催

平成２２年８月３１日～９月１日に(株)群馬県食肉卸売市場（玉村町）において、群馬県養豚協会養豚経営者部会主催の第３４回群馬県バローショーが開催されました。群馬県内より去勢肥育豚１組４頭として、２７組１０８頭が出品され、総合最優秀賞、個体最優秀賞ともに東吾妻町の(有)吾妻牧場が選ばれました。今回は今年４月に発生した口蹄疫の影響で、生産者を集めての研修会は開催することが出来ませんでしたが、出荷した豚の格付、枝肉重量等を予想する豚枝肉予測コンテストを開催し、(株)フリーデン梨木農場が優勝しました。なお、入賞者は以下の通りです。

総合の部

賞名	出品者
総合最優秀賞	(有)吾妻牧場
総合優秀賞	(株)フリーデン梨木農場
総合優秀賞	宮田琢也 ((有)宮田ﾌﾞﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ)

個体の部

賞名	出品者
個体最優秀賞	(有)吾妻牧場
個体優秀賞	下仁田ミート㈱吾妻牧場
個体優秀賞	(株)林牧場
個体優秀賞	(株)ｵｰｹｰｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ大原農場
個体優秀賞	宮田琢也 ((有)宮田ﾌﾞﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ)

出品された豚

個体最優秀賞の豚

個体優秀賞の豚

平成22年度群馬県種山羊共励会開催

平成２２年９月２４日に渋川家畜市場において、群馬県山羊・めん羊振興会主催の平成２２年度群馬県種山羊共励会が開催されました。群馬県内より山羊２６頭が出品され、種山羊の飼養管理技術や改良の成果を出品者自ら確かめていました。群馬県知事賞には、角田主計さん（沼田市）の「中倉２２」が選ばれました。なお入賞者は以下の通りです。

審査の様子

山羊共励会　上位入賞山羊一覧

部	名　　号	出　品　者	備　　考
第１部（未経産雌山羊）	さとう２２－３１	前橋市　　佐藤　徳夫	(社)畜産技術協会長賞
第１部（未経産雌山羊）	みやかめ２２－２	みなかみ町　小池亀三郎	群馬県畜産協会長賞
第３部（若令雄山羊）	中倉２２	沼田市　　角田　主計	群馬県知事賞
第４部（壮令雄山羊）	長野白梅２０－１	前橋市　　望月　衛	群馬県畜産協会長賞

和牛削蹄技術講習会を開催しました

平成２２年１０月１日に群馬県畜産協会、全農群馬県本部、ＪＡ繁殖和牛部連絡協議会、群馬県和牛改良組合連絡協議会の４団体共催で、講師に群馬県牛削蹄師会の原敬一会長を始め５名を招き、和牛の削蹄技術講習会が開催されました。この講習会は、平成２４年に長崎県で開催される第１０回全国和牛能力共進会への出品対策の一環として行われました。

講習は２部に分けて行われ、午前の部として、削蹄に係る講義を受講し、午後の部では実際に和牛を用いて削蹄実習をしました。参加した生産者は、爪や肢蹄の構造、病気疾患等を熱心に聞き入り、また実際に牛に触れ削蹄方法を熱心に学んでいました。

削蹄前

削蹄

削蹄後

牛の削蹄の効果

削蹄

安定した立ち方と歩行の確保
（余分なエネルギーの消耗抑制。負重の偏り防止。）

蹄病の予防　健全な生活行動　食欲の増進

乳牛
・泌乳量の増加
・耐用年数の延長

肉用牛
・増体効率の向上
・耐用年数の延長

削蹄は三文の得！

運動量が極端に制限されている乳牛や肉牛。そんな牛たちにとって蹄の機能を回復し、それを維持するために人為的な技術を施すことが必要です。それが削蹄です。

一文目の得　伸びすぎた蹄を削切することで、本来の蹄形を維持し、安定した立ち方と歩き方に改善し、余分なエネルギーの消耗を抑えます。

二文目の得　負重の偏りを防ぎ、苦痛を取り除き、蹄病の発生を抑えます。

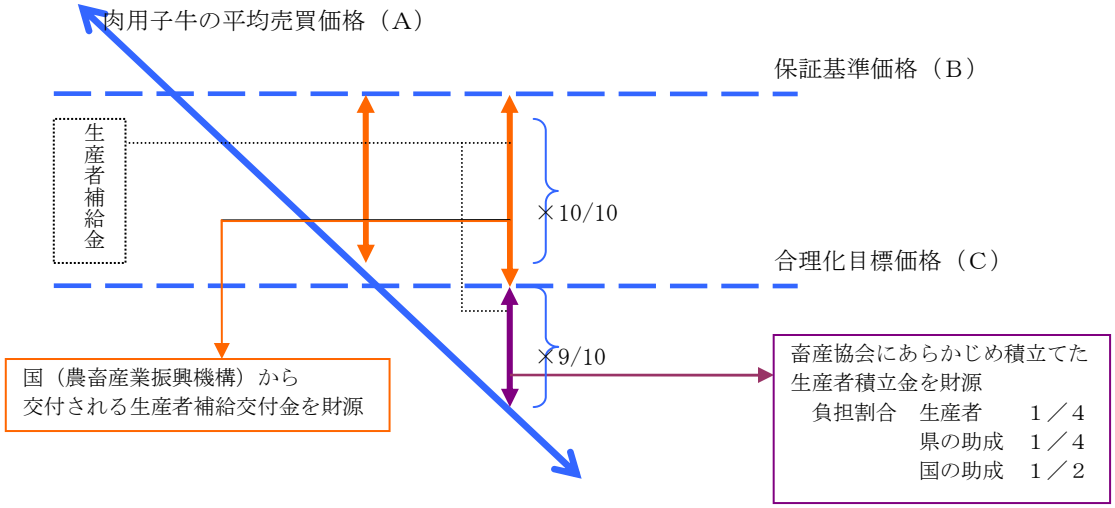
三文目の得　蹄のポンプ作用が回復し、蹄内部の血液循環が活発化して、丈夫な蹄を作ります。

（日本装蹄師会ＨＰより抜粋）

肉 用 子 牛 生 産 者 補 給 金 制 度

【事業の概要】

肉用子牛価格が低落し、四半期ごとの平均売買価格が保証基準価格を下回った場合、その期間中に販売、自家保留した契約肉用子牛に対して生産者補給金を交付します。



【事業の実績（平成 22 年 11 月現在）】　　（単位：円、頭、戸）

対象期間	品種区分	交付単価	対象頭数	交付金額	交付対象者	交付（予定）日
平成 22 年 4～6 月	ほか肉専	35,800	1	35,800	1	8 月 31 日
	乳用種	31,600	478	15,104,800	13	
	計	―	479	15,140,600	14	
平成 22 年 7～9 月	ほか肉専	70,190	1	70,190	1	11 月 22 日
	乳用種	41,100	675	27,742,500	18	
	計	―	676	27,812,690	19	

肉 用 牛 繁 殖 経 営 支 援 事 業

【事業の概要】

肉用子牛の四半期毎の平均売買価格が発動基準を下回った場合、当該四半期に販売又は自家保留された肉用子牛を対象として、発動基準を下回った額の３／４を交付します。

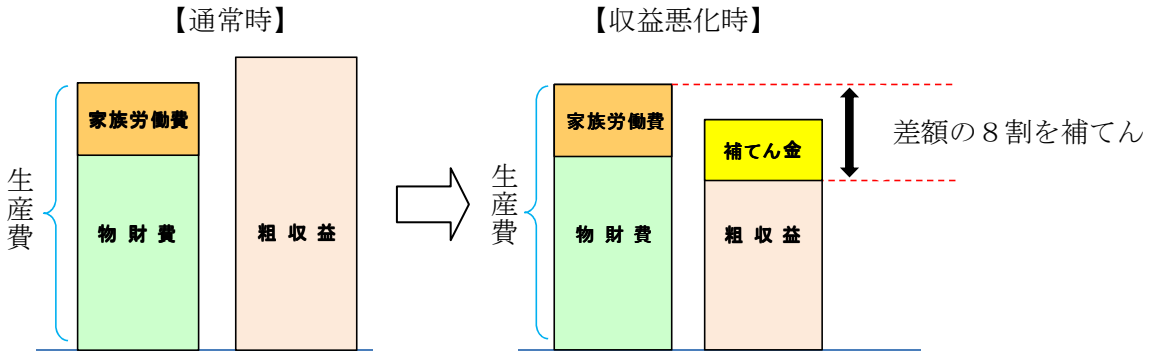
【事業の実績（平成 22 年 11 月現在）】

対象期間	品種区分	交付単価	対象頭数	交付金額	交付対象者	交付（予定）日
平成 22 年 4～6 月	ほか肉専	34,500	1	34,500	1	8 月 31 日
	計	―	1	34,500	1	
平成 22 年 7～9 月	黒毛和種	5,400	717	3,871,800	103	11 月 22 日
	ほか肉専	34,500	1	34,500	1	
	計	―	718	3,906,300	104	

肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン）

【事業の概要】

肉用牛肥育経営の安定を図るため、四半期毎の肥育牛一頭当たりの粗収益（全国平均）が生産費（全国平均）を下回った場合に、生産者の拠出と国の助成により造成された基金から、粗収益と生産費との差額の８割を補てん金として交付しています。以下の表が実績となります。



【事業の実績（平成 22 年 11 月 17 日現在）】　　（単位：円、頭、戸）

対象期間	品種区分	交付単価	対象頭数	交付金額	交付対象契約者数	交付(予定)日
平成 22 年 4～6 月	肉専用種	45,400	2,222	100,878,800	130	8 月 31 日
	交雑種	37,000	4,102	151,774,000	171	
	乳用種	55,900	1,241	69,371,900	19	
	計	－	7,565	322,024,700	320	
平成 22 年 7～9 月	肉専用種	36,400	2,159	78,587,600	134	11 月 30 日
	交雑種	69,200	3,435	237,702,000	175	
	乳用種	45,800	997	45,662600	20	
	計	－	6,591	361,952,200	329	

※７～９月分の交付単価については、機構承認がおりていないため、現在の予定単価です。

養豚経営安定対策事業（全国肉豚）

【事業の概要】

養豚経営の安定を図るため、豚枝肉平均価格が生産コストに相当する保証基準価格（460 円/kg）を下回った場合に、生産者の拠出と国の助成により造成された基金から、差額の８割を補てん金として交付しています。以下の表が実績となります。

【事業の実績　（平成 22 年 11 月現在）】

	第１四半期	第２四半期
枝肉全国平均価格（円/kg）	448	472
補てん金単価（円/頭）	730	－
補てん対象肉豚頭数（頭）	158,513	－
補てん金交付額（円）	115,714,490	－
補てん金交付（予定）日	8 月 31 日	交付なし*

保証基準価格を上回ったため、次回補てん金交付時に第２四半期出荷肉豚分も交付対象として支払われることとなります。

新技術 群馬県畜産試験場(吾妻肉牛繁殖センター)における哺乳牛管理の改善について

当センターでは、基本的に全ての飼養ステージで群管理を実施しています。生まれた子牛は、21日齢までは母牛と単房で飼育しますが、その後は、母子分離型制限哺育法を取り入れています。また、増体の少ない子牛の場合は、母牛の泌乳量が少ない可能性があり、哺乳ロボットを活用しますが、哺乳中に他の子牛に股間を頭突きされたり、柵から押し出されたりして、必要量を落ち着いて飲むことができないことがあります。そこで、安心して哺乳できるように哺乳ロボット用自動開閉ドアを開発したので、あわせて紹介します。

1 母子分離型制限哺育法

この方法は、繁殖和牛の群飼育哺育において、母子を分離し、1日のうち数回だけ哺乳させるものです。当センターでの実施状況と特徴は、次のとおりです。

(1) 母牛飼育場所の隣に子牛の飼育場所を設け、生後2～3週齢以降母牛から分離し、仕切り板（引戸）の開閉により1日朝夕各30分間だけ母牛飼育場所で哺乳させています（写真）。

(2) 制限哺育による子牛の発育は、自然哺育に比べ良好な成績を確保できるようです。これは、母牛群からの疾病感染の機会が減少し、子牛の哺乳・ふん便等個体観察が容易になるので疾病の発見が早まり、健康状態が向上するためと思われます。

(3) 制限哺育の開始時期は、生後2週齢よりも子牛のストレス抵抗力がつく生後3週齢以降が適当です。

（写真） 哺乳開始(引戸開放)

2 哺乳ロボット用自動開閉ドア

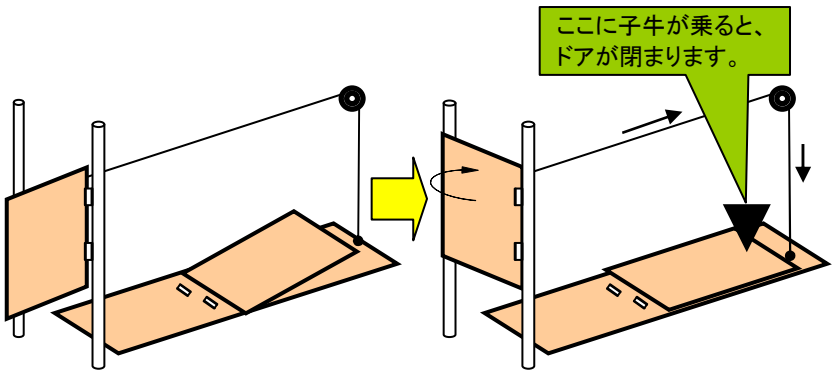
哺乳ロボットは、子牛に自動で哺乳する装置です。識別センサーにより個体ごとに授乳量等を設定でき、1台で約20頭程度まで哺乳が可能であり、大規模飼養農家を中心に県内でも導入されています。哺乳ロボットは、柵の中で一頭ずつ哺乳する構造になっていますが、待ちきれない他の子牛から妨害さないように、哺乳ロボット用自動開閉ドアを開発しました。その構造と特徴は、次のとおりです。

(1) 哺乳のため子牛が柵内に入り踏み板の上に乗ると後ろのドアが閉まり、哺乳終了後は子牛が後ろに下がることで自動的にドアが開く仕組みになっています（図）。

(2) 自動開閉ドアには、内外両開きの自由蝶番を使用し、常に開く状態であるため、閉じこめられる心配はなく、子牛はすぐに馴れます。

(3) 材料は、単管、クランプ、コンパネ、蝶番等ホームセンター等で購入できるものを利用しているため、誰でも2～3万円程度で製作することができます。

(4) このドアを設置することにより、他の子牛に妨害されることなくスムーズに必要量を摂取することができ、子牛が非常に落ち着きました。



（図） 仕組み

問い合わせ先:吾妻肉牛繁殖センター　TEL:0279-67-2918

新技術　トウモロコシ乾燥蒸留かす(DDGS)の採卵鶏飼料への多量配合技術

DDGSはトウモロコシや大豆粕の代替として、採卵鶏の生産性を損なうことなく飼料に40%配合できます。
また、卵黄の着色効果のあるキサントフィルや有効リンが多いことから、これらを節減した飼料設計が可能です。

写真1　DDGS

トウモロコシを原料としたバイオエタノールの副産物です。

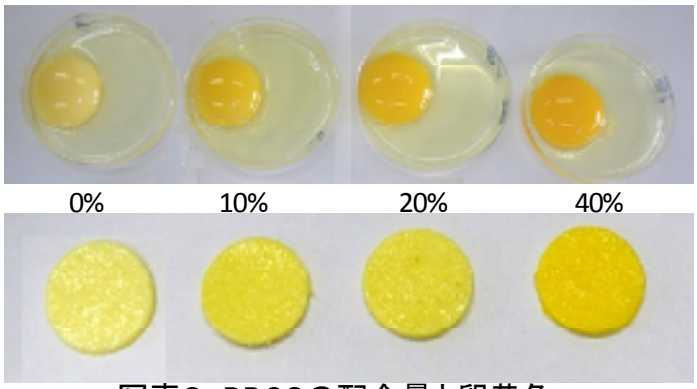


写真2　DDGSの配合量と卵黄色

DDGSの増加に伴い卵黄色が濃くなり、加熱後も退色せず鮮やかな黄色です。

卵黄の色は色素のキサントフィルによるもので、DDGSに多く含まれており、キサントフィル給源として使用されているパプリカ、マリーゴールド等を節約できます。

表　試験成績(151～510日齢)

DDGS の配合量	生存率 (%)	産卵率 %/日羽	平均卵重 g	日産卵量 g/日羽	飼料摂取量 g/日羽	飼料要求率	卵黄色
40%	98.6	91.9	64.5^{a}	59.3	115.4	1.95	12.4^{A}
30%	98.6	91.6	65.8^{b}	60.3	116.1	1.93	12.3^{A}
20%	95.8	92.3	65.3^{ab}	60.3	115.7	1.92	12.2^{A}
0%(対照)	93.1	92.7	65.4^{ab}	60.6	116.3	1.92	11.8^{B}

※供試鶏はジュリアで、1試験区あたり24羽×3反復で実施。卵黄色は360日齢時のカラーファン値。
異符号間に有意差ありA,B:p<0.01　a,b:p<0.05

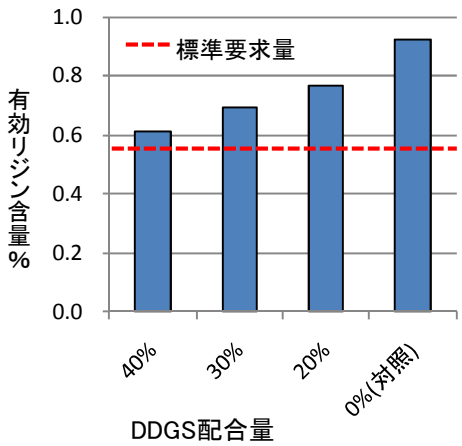


図1　飼料中の有効リジン含量

配合量が増えるとリジン含量が減りますが、40%配合でも日本飼養標準の要求量を満たします。

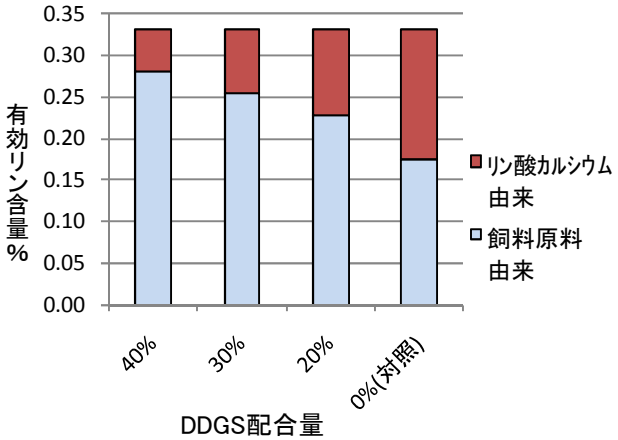


図2　飼料中の有効リン含量

有効リンが多く含まれ、リン酸カルシウムの添加量を節減できます。

問い合わせ先:畜産試験場　中小家畜係　TEL:027-288-2222

第２１回 群馬県酪農畜産フェスティバルが実施されました

１０月３０日（土）３１日（日）の２日間、県畜産試験場・馬事公苑において群馬県酪農畜産フェスティバル（主催：群馬県酪農畜産フェスティバル推進協議会）が開催されました。「生産者と消費者のつどい」をテーマとしたこのフェスティバルでは、消費者の方々に本県の恵まれた自然と大地から生産された県産畜産物の安全性と良さをアピールするとともに、酪農畜産に対する正しい理解を深めてもらうための催しが、会場狭しと催されました。当日は台風の影響でコンディションの悪い中、４万３千人と多くの来場者で賑わいました。

毎年行われていた「乳牛・和牛共進会」については、口蹄疫の影響で中止になりましたが、本会で事務局を担当する、群馬県養豚協会、群馬県養鶏協会、群馬県養蜂協会、群馬県馬事畜産振興協議会が、県産畜産物の無料配布・試食販売などの催しを実施し、長蛇の列で注目を集めました。

畜産カレンダー

月　日	内　容	対　象	開催場所	主催
11月25日	オーエスキー病対策協議会	検討委員	ＪＡビル	群馬県オーエスキー病対策協議会
11月26～27日	酪農ヘルパー要員研修会	県内酪農ヘルパー	みなかみ町	畜産協会
12月1日	群馬肉牛セミナー	生産者・関係団体	ＪＡビル	ＪＡ東日本くみあい飼料(株)
12月8日	乳牛登録委員・家畜人工授精師合同研修会	乳牛登録委員・家畜人工授精師	畜産試験場	畜産協会・家畜人工授精師協会
12月16日	群馬県家畜保健衛生業績発表会	県関係者・関係団体	産業技術センター	群馬県
3月4日	肉用牛合同研修会	生産者・関係団体	ＪＡビル	畜産協会他５団体

〈南関東4競馬場開催日程〉

（2010年11月～2010年12月）

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
開催場	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			大井	大井	大井	大井	大井			川崎	川崎	川崎	川崎	川崎			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			大井	大井	
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
開催場	大井	大井	大井			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			川崎	川崎	川崎	川崎	川崎			浦和	浦和	浦和	浦和	大井	大井		大井	大井	大井	大井	大井

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています。

―― 編集後記 ――

早いものであと１カ月と少しで年末を迎えます。皆様にとって今年はどんな年だったでしょうか？残念ながら家畜にとっては、酷暑に続く残暑の影響で生産が落ち込むなど、未だに出荷量に影響が出ています。紅葉も終わる季節、寒暖差が少なかったのか、我が家のけやきは青いまま、泰然自若としています。年々地方食文化を紹介する「B級グルメ」が話題になっています。今後の畜産物消費拡大を期待します。（編集委員　角橋）